

古代から現代へ・ゴミ処理の歴史的変遷！！



縄文時代の貝塚

古代人は集落を形成して居を構えてから、ゴミ捨て場の原型である貝塚を設置利用し生活空間から離れた場所にゴミを捨てていた。貝塚からは人骨や獣骨、魚骨、滑角器等が多く出土しているため、生ゴミ単体よりも様々なゴミを捨てる所だったと言えます。

これがゴミ処理の最も古い歴史とされています。



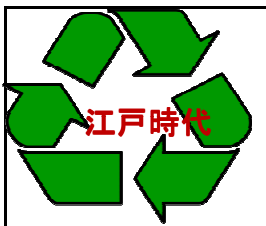
出現

官職

平安時代

平安京ではすでに掃除に関わる官職があった。掃部寮と言い宮中の掃除や調度設営等を担当していた。延期式と言う法律には清掃や掃除の言葉が数多く記述され、京の生活環境を保っていた。道路を清掃する命も当時すでに発せられている。鎌倉幕府時代の歴史書・吾妻鏡にも寺や道路の掃除の話題が述べられている。くみとり便所その頃に発明されたようである。

この時代に衛生面が大幅に変化したと言われています。



江戸時代

江戸時代になると江戸や大坂で都市が発展し、ゴミ処理が大きな問題となっていたようだ。江戸町では幕府が定めたゴミ捨て場にゴミを埋め立て、各家庭からのゴミをゴミ処理場まで運ぶのを生業とする芥取り業者が存在し、今日の自治体の清掃業務に近いシステムがすでに構築されていた。芥改役を配置するなど、町をきれいに保つためのゴミ処理に江戸幕府は苦勞していた。そのお陰か、外国人が書いた文献によれば江戸の町の清潔さは、当時の欧州の状況に比べて非常に際立っていたようだ。道具屋、古着屋、古金屋、空き樽屋、空き瓶屋、、ぼろ屋など廃品回収業者が活躍し、ほとんどのものを再利用するリサイクルが行われていました。



明治大正時代

明治の初めごろから隣国で発生したコレラが流行し、多くの患者や死者が出るという惨事が起こり始めました。明治政府はゴミ処理を伝染病予防の一つと考えるようになり、ゴミ問題に積極的に関わり汚物掃除法が制定されました。人口が増えた大阪と東京ではゴミ問題から逃れられなく、大阪市は大型の焼却炉を次々と設置した。東京市は東京湾へ直接埋め立てるか露天焼却した後の灰を埋め立てることで対応できたため、焼却場建設が大幅に遅れることとなった。東京府内ではじめて焼却場ができたのは、大阪市に遅れること25年、昭和3年のことでした。



焼却施設・大阪

戦後のゴミ処理の変革スタートは米軍からの要請です。占領軍は昭和20年「公衆衛生に関する件」を発令、日本政府の責任で占領軍のゴミ処理を求めたのです。昭和22年、都市清掃協会が「汚物掃除法」の改正に取り組み、昭和29年「清掃法」が成立する。その後各市町村が焼却施設の整備を急ぎました。

焼却によるゴミ処理以外にも、生ゴミの有機性資源としての性質を利用して、コンポストで生ゴミを発酵させ堆肥として再利用する方式の採用も進んでいます。近年は、集合住宅にディスポーザーシステムが採用され多くの実績ができています。

生ゴミ以外は、リサイクル法により分別・資源活用がスムーズに推進されています。

参考資料 ディスポーザーによる生ゴミ処理を考える

汚泥ゼロ・臭気ゼロ

ハイブリッドシステム推進中！

株式会社クリーンテックサービス

ゴミ処理の歴史は遷都の歴史と合致するとも言われています。ゴミ処理のシステムは地球の温暖化防止にも影響をもたらします。私たちはディスポーザーシステムの適切な運転で無駄な資源(ゴミ)を出さないメンテナンスを実践・提案しています。(プロジェクト推進室)